

離任挨拶（サンパウロ、2016年9月29日）

本日は、私共のためにこのような盛大な送別会を開催いただきありがとうございます。10月上旬にブラジルを離任します。在任期間中、ご列席の皆様をはじめ、ブラジル中の日系社会の皆様からたくさんのご支援を頂いたことに心からお礼を申し上げます。

2014年、FIFA・ワールドカップ・ブラジル大会では、サンパウロ、レシフェ、ナタウ、クイアバの日系社会に日本代表チームの応援と邦人の安全を支えて頂きました。高円宮殿下は皇族として初めてナタウを御訪問されました。

同年8月、安倍総理夫妻がサンパウロを訪問された際、この会館で歓迎式典の後、お二人が約千名の式典参加者と写真撮影されたことは、嬉しい驚きでした。安倍総理の訪伯は、10年ぶりの現役総理のブラジル公式訪問でした。この訪問を契機に日本政府は日系社会との連携強化に一層力を入れて取り組むこととなります。また、茶道裏千家の中南米における創設60年周年を記念した千玄室大宗

匠のサンパウロ訪問も歴史に1ページを刻む重要なできごとでした。

日伯外交関係樹立120周年の2015年、ブラジル全国で500以上の記念行事が開催されました。120周年行事の企画のために、サンパウロに設立された「全国レベル実行委員会」は中核的役割を担いました。また、多くの企業と個人から花火祭り、日本館改修事業、日伯共同プロジェクト展示会開催のために多額の寄付をいただきました。更に、リオ、ベレン、マナオス、ブラジリア、パラナ州、リオ・グランデ・スル州にも実行委員会が設立され、各地の記念行事を企画・主催頂きました。正に「オールジャパン・イン・ブラジル」の取り組みができたことに関し、ブラジル中の関係者の皆様に感謝申し上げます。

また、コチア青年60周年記念事業に参加させて頂いたことも貴重な思い出です。

120周年のクライマックスとして、秋篠宮同妃両殿下がブラジル6州9都市を訪問されました。連邦政府、連邦議会、各州知事等との行事に加え、各地で日系社会の皆様と心温まる交流をされまし

た。サンパウロでは、両殿下はこの会館で多数の方に歓迎いただき、親密に懇談されました。忘れ難い思い出です。また、両殿下のパラ州訪問にあわせ、知事が約束通り、トメアスの道路舗装を実施下さったことにも感謝しております。

今年のリオ・オリンピック・パラリンピック前には、治安（テロ、一般犯罪）、ジカ熱、施設建設の遅延等の様々な懸念材料がありました。幸いなことに、大会はオリンピック、パラリンピックともに大成功でした。大会期間中、日本選手の活躍も含めてブラジルから明るいニュースが沢山日本で報道されました。事前合宿と本大会でブラジルを訪問した1万人以上の日本選手団と邦人観光客は、リオのみならず、マナオス、サルバドール、サンパウロ、セルジッペで日系社会から温かく迎えて頂き、深刻な事故・事件は一件も報告されておられません。各地における支援に心から感謝申し上げます。

リオでは、大会期間中、日系社会の協力を得て、日本選手団の出迎え、競技の応援、選手団の歓迎会等を開催できました。また、安倍総理のオリンピック閉会式参加、小池東京都知事へのオリンピッ

ク・フラッグ、パラリンピック・フラッグの引き渡し等を通じ、日本はリオ大会の成功に少なからぬ貢献をしました。

私は、在任期間中、「日系社会との連携強化」を大使の最重要業務の一つと位置付け、取り組んで参りました。天皇・皇后両陛下をはじめ、日本の皇族が有しておられる日系社会に対する特別の思い、安倍総理、麻生副総理、河村日伯議連幹事長をはじめ日本の政治リーダーのサポートは大きな力となりました。

今年、大使館は各総領事館、JICA、及び国際交流基金と協力し、人的交流、日本語、医療、日本食、日本祭り、スポーツ等9つの分野での日系社会との連携に関する具体的施策を初めてまとめました。

人的交流はこの2年間に大幅に拡充されています。日本語分野では、ブラジル日本語センターの「国際交流基金賞」受賞が決定されました。ブラジルの団体として、初の受賞です。日本食では、日本食の継承・普及への婦人部の貢献が大きいと認識し、大使館はブラジルア、ゴイアス州、トカンチンス州、ミナスジェライス州の10の日系団体婦人部を先週「公館長表彰で顕彰」させて頂きました。

JICAは日本食料理人3名を既に派遣し、ブラジル各地で日本食の講習会を実施中です。また、婦人部代表（6名）を日本に招待し、日本食研修を予定しています。ブラジル各地の日系病院に対する医療機器支援等も充実できました。日本柔道連盟やスポーツ各社の支援、JICAボランティアの派遣を通じ、「柔道」をはじめスポーツ交流も強化しています。サンパウロ日本祭りは、言わばブラジル全土の日本祭りのモデルです。日本政府は昨年以降、協力を強化しています。

これらの施策は、「日系社会との連携強化」として大使館ホームページに日本語・ポルトガル語で掲載していますので、皆様の活動に御活用いただければ幸いです。

私は、2年7か月の在任期間中、76回出張し、連邦特別区を含めブラジル27州のうち18州を訪問しました。特に、サンパウロは39回、リオデジャネイロを15回訪問しました。これらの訪問を通じて実感したことは、第一にブラジルが大国であることです。また、日系社会がブラジル各地の発展に貢献をされているのみならず、日本祭り、盆踊りなどを通じ、親日感醸成、日本文化の継承と

普及に大きく貢献されていることです。皆さんの長年のご尽力に心より感謝を申し上げます。

現在、ブラジルは歴史的変革期に直面しています。私は、ブラジルの将来にとって、良い意味での大変化が起こりつつあると信じています。この変化をしっかりと見届ける役割は、後任大使にバトンタッチしますが、私もブラジルの友人として、大きな期待を持って変わりゆくこの大国の将来を見ていきたいと思っております。

最後に、「特別な人的絆」を有する日本とブラジルの関係が、今後益々発展すること、また、いつの日か皆様とお会いできる日の来ることを祈念し、私の離任の挨拶とさせていただきます。本当に有難うございました。

9月29日 駐ブラジル日本国特命全権大使 梅田邦夫